

都岐沙羅
つきさらの風

Vol. 8
March.2003



顔の見える安心

取材に行った村上の六斎市は、30軒程の店が出ていました。その大部分の店が食品を扱っています。魚介類を扱う店先の魚類は、今朝、地元の漁港に上がったものです。野菜類も、旬のものはほとんどが地場物です。中でも、おばあさん方が、自分の作った野菜やそれを加工した漬物などを売っている店先を覗いて見ると一軒一軒のこだわりがあって、まさに自信作の発表会のようなものです。また、買う側も

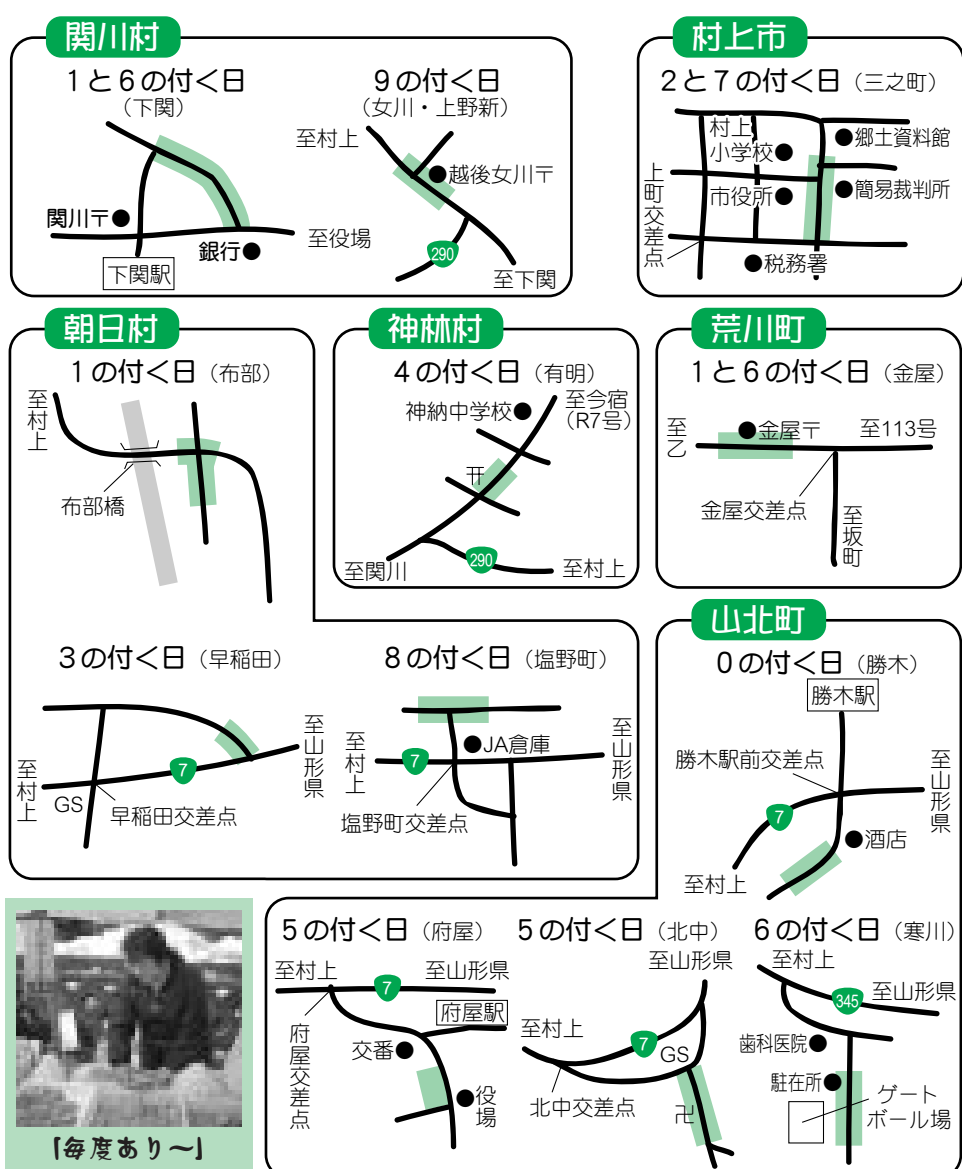
そのこだわりを知っていて、買って行きます。各店に常連客がいて、「毎度どうも。」「いつものね。」と、顔と顔の関係がしっかりとできています。

食品を購入するときの安心の原点は、この生産者や販売者の「顔が見える」に尽きると思います。それを意識する事なく、売買が繰り返されてきた定期市が再び脚光を浴び始めているのです。

皆さんも是非、足を運んでみて下さい。市場全体が「家庭の台所」の暖かい雰囲気ですよ。



「どう、おいしかったです！」



村上・岩船地域振興計画

～「都岐沙羅のまち」にぎわいづくり～



村上・岩船地域を管内とする、県の地域機関（村上健康福祉事務所や村上土木事務所など計 10 事務所）が、地域の特性に合わせて各地域機関の施策を効果的・効率的に組み合わせ、「県事業」を展開し、振興を図っていくのが「地域振興計画」です。

今回は、この計画の「2つのテーマ」を実現するための重点事業を決定しましたので、その内容をご紹介します。

テーマと、テーマを実現するために重点的に取り組む事業

ここにあげた事業は、向こう 5 年間で重点的に取り組みます。

テーマ1

ふれあいによる（都岐沙羅）のまちづくり

交流・連携による元気づくり

(1) 交流・連携の基盤づくり

●人的基盤づくり

地域の特性から「観光」「農林水産業」等の分野で、交流・連携を一層促進して活性化を図るために行政機関や農協、観光協会等の各種団体を結びつける役割を果たす「コーディネーター」の育成に努めます。

●社会基盤づくり

活気あふれる「地域づくり」を進めるためには、社会基盤の整備が必要です。現在の「車社会」では、「日本海東北自動車道」や「新潟山形南部連絡道路」等の整備が、また特定地域振興重要港湾に選定された岩船港では、観光をテーマに「岩船港湾振興ビジョン」の実現などが重要であると考えます。今後、これらの社会基盤整備により交流人口が増加して地域がより「元気」になることが期待されることから、整備促進を関係機関に働きかけながら事業展開を行っていきます。

(2) 交流・連携のシステムづくり

●市町村間交流・連携のシステムづくり

当地域は、広大な面積（約 1,484 km²あります。これは香川県（約 1,876 km²）の約 80%に匹敵します。）と 300 を超える集落が点在しています。また、急速に高齢化社会へ向かっています。

この地域特性から、これからの「まちづくり」には「市町村間の交流・連携」と高齢者が生き甲斐を感じられ、安心して生活できるような「交流の場」の確保が必要です。

そのため、地域内で利便性の高い公共交通機関による「生活交通の確保」を図るとともに、公民館や空き家等を利用した「住民の交流拠点づくり」に努めます。

また、地域内の「道の駅」（4 箇所）を「交流人口拡大拠点」として利用促進するために相互間の連携を図り、「地域情報の発信拠点」「地域特産物の販売拠点」となるよう関係機関に働きかけます。

●地域間交流・連携のシステムづくり

高速交通体系の整備は、東北・関東地方との交流・連携を可能にし、人・物・情報等の拡大につながります。特に村上・岩船地域では、「観光」の活性化と地域産物の販路拡大に向けて活用できる利点があります。

このため、高速交通体系の整備促進を関係機関に働きかけるとともに、「新たな広域観光ルートの創出」や「地域特産物の販売ルートの拡大」を目指して、関係業界団体等を支援します。

また、村上・岩船地域には都市在住の方々が求めている「自然」が沢山あります。この「自然」を活かして、都市住民等との「交流人口」を増やすための住民自らの活動等を支援します。

テーマ2

食の魅力に包まれた《都岐沙羅》

さらなる「食の宝庫」をめざして

(1) 「食の宝庫」の基盤づくり

●担い手づくり

農林水産業を巡る状況は、今後、国際化や産地間競争など一層厳しいものがあり、当地域でも「足腰の強い農林水産業」を確立する必要がありますが、従事する者の高齢化が進み、若い担い手が減少しています。

このため、新規学卒やUターン等の新規就業者の確保を図ります。

また、意欲と希望の持てる営農システムの構築を目指します。

●生産基盤づくり

「食の宝庫」を目指すには、消費者に対して新鮮で良質な生産物を安定的に供給することが必要です。

このため、消費者の要求に対応した米、園芸野菜、畜産等の安定生産を図るとともに、消費拡大に向けた農産物の直売や学校及び福祉施設等の給食への提供等、生産から流通販売、そして消費までの活動を支援することで生産基盤の充実に努めます。

また、水産資源においても「つくり、育て、管理する漁業」の推進に努めます。

(2) 環境と調和した「食」づくり

●人的基盤づくり

近年、農作物生産者、消費者の価値観が変化し、化学肥料や農薬の使用を控えた安全・安心な農作物の生産や購入に関心が集まり、環境への意識も高まって来ています。

当地域は、畜産業の比率が高いことから、家畜排泄物等の肥料資源の循環利用を進め、環境と調和した自然に優しい農業を推進します。

(3) 「食の宝庫」づくりの推進

●社会基盤づくり

当地域には、従来から豊富な「食」の生産基盤である海、川、山があり、そこから生み出された産物を活かした特産品が産まれてきています。

これからも地域産物を活用した特産品の創出や加工食品の開発を官民協働で図るとともに、開発された商品の販売網整備等に対しても支援していきます。

さらに「食」に関する講演会等の開催により情報の充実に努めます。また、さまざまな情報媒体を活用しながら、積極的な情報発信に努めます。



ユリ花ハウス

力強い農業経営を目指して!!

村上・岩船地域の稲作農業者 36 人が 2 月 4 日、荒川町や神林村の、オータムポエムやイチゴなどのハウス栽培ほ場を視察しました。

村上・岩船地域は、魚沼米に並ぶおいしい岩船米の産地として、その地位を築いてきましたが、近年の農畜産物価格の下落などから、経営体質の強化が必要となり、園芸作物の導入による複合経営が急務とされています。

そこで岩船農業改良普及センターが研修会を計画、この日の視察となりました。

☆まず現地を視察



研修会の視察には、稲作農家の土地や労働条件に即した園芸をということ、冬場のハウス栽培が選ばれました。

視察の一番目は荒川町のオータムポエムです。冬に出荷される栽培野菜の一つで、訪れたハウスには 60 センチほどのオータムポエム 500 株が緑鮮やかに育っていました。「二、三月の寒さに遭うことで甘みが増します。比較的手がかからないので、女性や高齢者を中心に栽培しています。」という説明を熱心に聞く参加者たち。この地域では、栽培者が増加傾向にあるということです。



オータムポエム栽培

次は荒川町のユリ切花ハウスです。ここでは周年生産を行っています。冷蔵庫で休眠させた球根を植え付けることによって「同一施設で年間 2 ～ 3 回栽培しますので、堆肥投入による土づくりがポイント」とのこと。また、土壌の蒸気消毒

といった新技術の紹介もありました。

最後に、いちご栽培ほ場です。ここでは高設栽培という、土を使わず養液のみで栽培するハウスを視察しました。この方法は設置費用がかかりますが、栽培管理がマニュアル化されており、初めて栽培する人でもうまく作ることができます。

☆視察してみても

参加した農家は、新規作目の導入や現在栽培している作物の技術向上を目指しています。実際に感想を聞いてみると「冬に栽培できるもので、何かいいものはないか見学に来ました。」「オータムポエムの栽培ポイントをつかんでおきたい。」「自分もユリを栽培しており、周年栽培する技術を学びたい。」など前向きな意見の方ばかりでした。

☆講演会では



後半の講演会では、巻町でブドウ栽培・ワイナリー、そしてレストランを経営している「カーブドットワイナリー」の落希一郎社長の講演を聞きました。
若い頃のワイナリー修行のご苦労された話から始まり、現在のワイナリー等の先進的な経営哲学まで、農家の経営にも役立つ内容で、みなさん感心して聞き入っていました。



いちご栽培ほ場

●オータムポエム●

特徴…アブラナ科の野菜で、つぼみの付いた茎・葉を食べます。苦みが無くアスパラ風味でおいしいです。

ハウスを利用すれば厳冬期の収穫もできます。

栽培型	月	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6
露地		●	●	●	●	●						
ハウス		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

●●●●●種まき
— 収穫

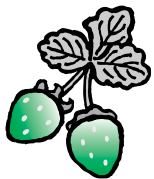
ちょこっと旬を味わう



オータムポエムの炒め物 (炒り卵入り)

- ①炒り卵は、ふわりと半熟に仕上げて皿に取り出す。
- ②オータムポエムを好みの塩加減で炒め、炒り卵を戻し入れ、さっと炒め合わせる。

農業改良普及センターから



当センターでは、1 年を通してこのような研修会を開催したり、実際に栽培を始めた方の技術指導を行っています。この他にもイチジクやアスパラガス、ブロッコリーなど、新規に栽培を始めた方がたくさんいます。

これから地元で生産された園芸品目（野菜等）が地元の店先にも並び始める季節です。

消費者の皆さん、ぜひ地元のものを購入して、味わってみてください。



イチジク栽培

地域情報板

◎地域の棚田を守ろう

休日を利用して、棚田を守るボランティア活動をしている「E C H I G O 棚田サポーター」では、サポーター会員を募集しています。

活動内容は、棚田の農道や水路の草刈りと補修のお手伝いです。

去年は、朝日村高根集落の方々と一緒に作業を行いました。作業終了後には、活動記録の報告会や収穫祭などで集落の方々と一層の親交が深まり大変賑わいます。「美しい景観の地元の棚田を守りたい。」「農業を少しでもやってみたい。」「農家の方と交流してみたい。」という方は、是非サポーター会員になってみましょう！新しい何かが見つかるかも知れません。

●**組織名** E C H I G O (えちご) 棚田サポーター

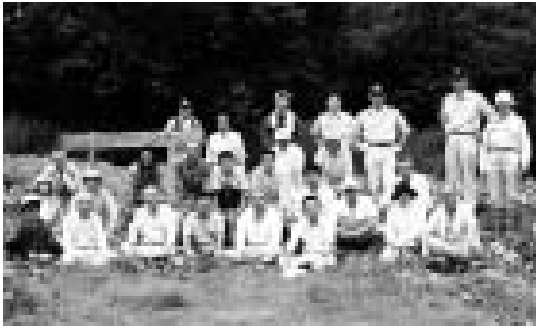
●**会 費** 年間2千円（会誌を年2回発行）

▶**問い合わせは**

事務局 村上市田端町6-25(総合庁舎内)
村上農地事務所 計画指導課
Tel 52-7951
Fax 52-6865

※また、棚田ボランティアに来てもらいたい地域集落も募集しています。

事務局までご連絡をお待ちしています。



県北地域の「救命救急センター」の基本設計ができました

新潟県病院局



県北地域の「救命救急センターの新設」と「高度先進医療の充実」等を目的に、JR新発田駅前に移転新築する県立新発田病院等の基本設計が完了しました。今年の秋には建設に着手し、平成19年春の開院に向けて工事を進めてまいります。県立瀬波病院が担っているリウマチ医療について、「合併症治療への対応」「療養環境の整備」等医療環境の充実を図るため、瀬波病院は県立リウマチセンター（仮称）として新しい新発田病院に併設移転します。

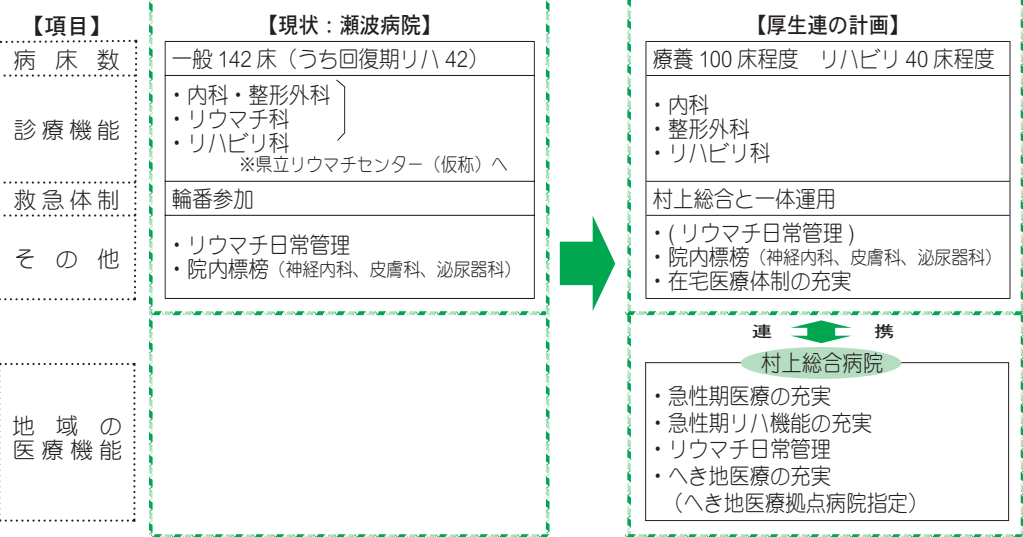
＜新病院の概要＞

項目	新発田病院	リウマチセンター（仮称）
階 数	地上11階	地上5階
延床面積	35,971㎡	6,763㎡
病床数	458床 救命救急センター20床	100床
診療科目	19科	2科 リウマチ科・リハビリ科
病棟数	10病棟+救命救急	2病棟 リウマチ・回復期リハビリ
敷地面積	5.7ha	

瀬波病院の利用について

県立瀬波病院の移譲については、厚生連から県に対して移譲の申し入れがあり、「県立瀬波病院移譲後の整備基本構想」が示されています。県ではこの利用計画について地域の方々にご説明し、ご意見をお聞きしてきました。

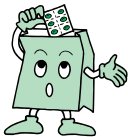
県では「地域の医療水準はこれまで以上に高まる」と判断しておりますが、今後とも地域の方々からご意見をお聞きし、最終的に決定することとしています。



新発田病院完成予想図
（県立リウマチセンター（仮称）側）



新発田病院等の基本設計について皆様のご意見、ご要望をお寄せください。概要資料は村上地域振興事務所、瀬波病院でも配布しております。



◆◆お問い合わせ◆◆
県病院局業務課
新発田病院建設室
TEL 025-280-5745
FAX 025-285-3843

県からのお知らせ

◎自動車の名義変更登録・まつ消登録の手続きはお早めに

自動車を売買したり、使わなくなったりしたときは、名義変更登録やまつ消登録等の手続きが必要です。

手続きを怠りますと、いろいろなトラブルの原因となります。また、いつまでも自動車税が課税されることにもなります。

手続きのことについては、売買した自動車販売店または北陸信越運輸局新潟運輸支局登録課にお尋ねください。

▼問い合わせは

新潟市東出来島14-26
北陸信越運輸局新潟運輸支局 登録課
TEL 025-285-3121

◎自動車税（自動車取得税）の減免申請手続きはお早めに

身体障害者が運転する自動車または、身体障害者に代わって同居する家族及び常時介護する者が運転する自動車で、一定の要件に該当する場合は、自動車税（自動車取得税）が減免されます。

この制度は、身体障害者本人が運転する場合と家族・介護者が運転する場合、並びに新たに購入する車（新車等）と既に所有している車（中古車）では、申請手続きが異なります。

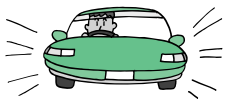
詳しいことについては、購入先または、村上県税事務所収税課にお尋ねください。

※新たに購入する車

申請場所…新潟県税務課新潟分室
申請期限…登録の時
※既に所有している車
申請場所…村上県税事務所 収税課窓口
申請期限…平成15年4月1日(火)
5月26日(月)

▼問い合わせは

村上市田端町6番25号（総合庁舎内）
村上県税事務所 収税課
TEL 52-7922
FAX 52-1316



◎朱鷺メッセ開業記念シンポジウム参加者募集

新潟市万代島に完成した朱鷺メッセの開業を記念して、次のシンポジウムを開きます。

開催日時	テーマ
5/1(木) 13:30～16:15	強い日本はよみがえるか
5/2(金) 13:00～17:00	産業創造の鍵を握る「新潟テクノロジ」、その系譜と新潮流
5/3(土) 13:00～17:00	ロボットはどこまで人間に近づけるか
5/4(日) 13:30～16:30	インタラクティブ・メディア（利用者が参加できる双方向メディア）の現状と未来

●会場 朱鷺メッセ（新潟市万代島6-1）

●**応募方法** 往復はがきに①希望するテーマ名②氏名（ふりがな）③住所④電話番号⑤性別⑥年齢⑦託児室利用の有無（3、4日のみ開設）を記入し、左記までご応募ください。
（入場無料。先着順。3日のみ通常のはがきで応募可）ホームページからも応募できます。
(<http://www.tokimeki-nigata.com>)

※この他にも5月1日～5日に「ゆめテック新潟'03」、「ロボカップジャパンオープン2003新潟」を主とした開業記念事業「朱鷺めき新潟未来ワールド」を開催します。（入場無料）

▼応募および問い合わせは、

〒950-8570（住所不要）
県庁万代島再開発課内
朱鷺メッセ開業記念事業実行委員会事務局
TEL 025-280-5100まで

「こきやらの風」通巻8号

この広報紙について、皆様のご意見、ご感想、ご要望がありましたら左記までお寄せください。

発行

村上地域振興調整会議
事務局 新潟県村上地域振興事務所 地域振興課
〒958-8585（※）村上市田端町6番25号
TEL 52-7230 FAX 52-1316
電子メール 102101a5@mail.pref.nigata.jp
（※）郵便番号を記入すると住所は省略できます。